

## 発刊のご挨拶



JR 長野駅善光寺口に近接して当商店街はあります。町の名前“石堂町”の由来は石堂丸（石童丸）からきています。石堂丸と言ってすぐに、その物語のわかる人は、年配の方と思われるのですが、近くに刈萱上人と石堂丸由来の西光寺（別名かるかや山）があり歴史のある町です。

遠く平安時代にまでさかのぼる刈萱上人と石堂丸の話はいつの世も親を思う子の気持ち、子を思う親の気持ちの普遍さを伝えるものです。その名前に由来のある「南石堂町商店街振興組合」の組合員には若手の経営者が多く大変活気のある商店街です。

当商店街の中心には組合の管理する駐車場があり、24 時間利用可能で組合員店舗への来客の利便性を支援しています。毎年 8 月初旬に行う“蟻の市”には近隣からの来場者も含め大変な賑わいをみせます。

しかし、この 40 年ほどを振り返ると長野駅前も大きく変化し、当商店街も少子高齢化、郊外への大型物販店の出現、購買行動の変化など、時代とともにその影響を多く受けてきました。平成 27 年 3 月には新幹線が金沢まで延伸し、長野駅ビルには多くの店舗が入居し人の流れにも大きな変化が生まれました。

こういった状況下でも私たちはただ何もせずに時代の流れに翻弄され、対応できずに縮小していくことは良しとしていません。当商店街組合員一同は人と人との接点を大切に“親切”、“丁寧”、“おもてなしの心”を大切にしてきていますが、こうした歴史と伝統を受け継いでもらいながらも、時代の潮流に機敏に反応し、新しいことにチャレンジし、生まれ変わっていかねば商業活動に先は無いと思っています。

こうした思いから当商店街では、長野駅前の商業振興及び活性化を目的にこれまでも様々な取り組みを行ってきました。そうした中で、地域でご活躍されている方々の熱い思いや考えに触れ、大きなイメージングを受けてきました。皆様は「地域のために」「次世代のために」との自他共存の精神で地道に活動されており、こうした思いを広く共有できれば地域を育む一つの動きが生まれてくるのではないかと日頃より思っていました。

そこで、市井の皆様から地域課題及び解決策(考え)をレポートで集め、地域の生の声を当

商店街で編纂し公開することで、皆に広く共有できれば、活動のヒントに繋がるのではないかと、日々まちづくりや活性化について研究及び企画を行っている当商店街下部組織である「活性化委員会」より提案がありました。これが「地域の論点 2020」の編纂を始めるきっかけです。

商店街という地域団体が編纂していますが、商店街というテーマだけではなく、子育て、福祉、防災、交通、コミュニティ、文化、食、観光など、テーマや執筆者を限定することなく、広く募集をさせていただきました。有難いことに 16 名の皆様からご協力をいただきました。どのレポートも執筆者の熱い思いや問題意識、方策が多く詰まっており、私たちが目指した「在野の知的財産の集積」の第一歩となる読み応えのある論集に仕上がっています。

遠い場所でも同じような課題や悩みを抱えており、思いもよらなかったことが解決の糸口になることは、私たちが生活している社会の中でもよくあることです。そんな見つけにくい「よくあること」のヒントをこの論集で得ていただけることがあれば、これほど嬉しいことはありません。執筆者並びに編纂にご協力いただいた多くの皆様には感謝をしてもきれません。本当にありがとうございました。

さて、昨年度は台風 19 号災害があり、復旧もままならないうちに新型コロナウイルス感染症による混乱といった先行きがなかなか見通せない不安な毎日ですが、生き抜くヒントは必ずどこかにあるはずです。心だけは腐ることなくひたむきに生きたいものです。

最後に、私たちと執筆者、執筆者と読み手であるあなた、あなたと論集を介して出会うまだ知らないあの人や一つひとつの事例。「地域の論点 2020」を通じて生まれる多くの出会いに幸あることを願ひまして、発刊のご挨拶とさせていただきます。

令和 2 年 5 月 吉日  
南石堂町商店街振興組合  
理事長 早川 房義